

2023年3月27日

## 大阪市長選挙にかかる公開質問状への回答

### 『おとなと子どもの市民宣言』がめざす学校像及び提言事項について

#### 【公開質問状の送付について】

公益社団法人子ども情報研究センターの研究部会の一つである「大阪の子ども施策を考える市民研究部会」は、2年間の研究活動の成果として、本年3月7日、『これからの学校と社会を変えていこう おとなと子どもの市民宣言 ～大阪府知事・市長ダブル選挙、統一地方選挙を前に～』（以下、『市民宣言』）を公表しました。『市民宣言』においては、子どもの権利が尊重される、持続可能な社会を次世代に手渡していくために、これからめざすべき学校像と、その実現のための8つの提言事項を掲げています。

『市民宣言』は、本文にも明記されている通り、「提言の趣旨を理解し、その実現のために誠実に努力する政治」を市民の立場から強く求めるものであることから、3月13日付で、大阪市長選挙（3月26日告示、4月9日投開票）に立候補予定の候補者に対して、『市民宣言』がめざす学校像および8つの提言事項についての見解をたずねる公開質問状を送付しました。回答の〆切期日は3月23日とし、期日までに回答がない場合は、回答がない事実を公開する旨を伝えました。

なお、安達真候補については、連絡先や事務所の所在地等の情報が一切公開されておらず、質問状の送付を断念せざるを得ませんでした。

#### 【公開質問状への回答について】

公開質問状に対し、回答期日までに、北野妙子候補、山崎敏彦候補、横山英幸候補からの回答がありました。

荒巻靖彦候補については、回答がありませんでした。

#### 【各候補者からの回答内容について】

以下、質問項目に対する各候補者の回答内容を、候補者名の順（50音順）に掲載しています。

※参考資料：『これからの学校と社会を変えていこう おとなと子どもの市民宣言』

<https://kojoken.jp/research-group/shiminkenkyubukai230307.html>

(QRコードはこちら→)



#### 本件に関するお問い合わせ

公益社団法人子ども情報研究センター事務局

〒552-0001 大阪市港区波除 4-1-37 HRCビル5階

TEL: 06-4708-7087 FAX: 06-4394-8501

E-mail: [info@kojoken.jp](mailto:info@kojoken.jp)

## 質問1 『市民宣言』がめざす学校像について

『市民宣言』において、「わたしたちは、学校をこんな場所に変えていきたい」として、下記の内容が掲げられています。

- 大前提として、どの子ども無条件であたりまえに受け入れられ、学び合える場所。
- なにをどんなふうに学ぶか、どんなルールをつくるか、どうすればもっと楽しく過ごせるか、子どもとおとなが話し合っ、いっしょにつくっていく場所。
- おとなが正解をもっていて、それを一方的に教えるのではなく、おとなも子どもから意見を聞いて、おたがいに学び合える場所。
- テストの点数が良いか悪いかで、子どもを評価したり、差別したりしない場所。
- しんどいときにひと休みすることが、あたりまえの権利としてみとめられる場所。
- 子どももおとなも、困ったときにはいつでも話を聴いてもらえて、助けてもらえる場所。
- 子どももおとなも、何度でもまちがってよい、失敗してよい場所。
- 一人ひとり違うから、いじめたり、いじめられたりするのではなくて、一人ひとり違うからおもしろい、いっしょにいるのが楽しいと感じられる場所。

ここに示された、これからの学校のめざすべきあり方について、賛否の見解を3つの選択肢から選んでお示しください。また、その理由についてご回答ください。

すべて賛同する    賛同する内容もあればそうでない内容もある    賛同しない

## 回答1 『市民宣言』がめざす学校像への見解

北野 妙子	すべて賛同する 日本は子どもの権利条約を批准しており、また子どもが人格を持った一人の人間であることから、市民宣言に掲げられた内容は当然学校がめざすべきことだと思います。
山崎 敏彦	すべて賛同する なかなか理想を言葉にするのは難しいですが、その理想を言葉にした素晴らしい内容だと思います。 ただ、この理想が性善説をもとに成り立っており、宣言を悪用する人間が出てきたときに、どう対処していくかが課題と思います。 私の考える対処法は、真善美の哲学を持った先生の育成です。 その先生がこの市民宣言を基に理想を掲げ、知性、意志、感性において子どもや保護者、他の先生からも絶大な信頼感を持たれ、それぞれが理想から外れ、誤ったこと、悪いこと、美しくないことをした時に、それを諭すことができる。 この哲学をもった先生の育成こそが、理想を実現するための鍵となると思います。 私は、この理想を実現するために大阪市の先生や保護者が動くのであれば、全力で支援いたします。

横山 英幸	すべて賛同する 目指すべき場所として賛同できると判断するため。ただし、8つの提言事項及びこれに関する説明文書では個人の感じ方による差異もあり、客観的な基準等がない中ではどのように実現できているかどうかの判断をするのが難しい点を申し添えさせていただきます。
荒巻 靖彦	※回答なし

## 質問2 これからの学校を変えるための8つの提言事項について

『市民宣言』では、先に掲げたこれからのめざすべき学校像の実現のに向けた政策課題として、8項目の提言事項を記しています。各提言事項についての見解をお示しください。

### 提言1 市民としての子どもの声を施策に反映させる仕組みをつくろう について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

### 回答2-① 提言1についての見解

北野 妙子	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>学校においては子どもが最大限尊重されるべき存在であり、学校の運営に子どもの声を反映させることは当然のことです。また、子どもも大人と同じく市民であり、施策レベルでも立案段階でのアンケートやワークショップなどを通じて、できるかぎり意見を反映できるよう取り組みます。</p>
山崎 敏彦	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>教育とは一方通行ではなく、相互の関りが重要と思います。そういう意味で、子ども側からの権利の主張も当然必要であり、そこから大人が学び、考えることで、親も先生も成長すると思います。</p> <p>一方で日本特有の文化を守ることも必要です。</p> <p>近年では「肌色」という名前がクレヨンなどから消えました。様々な肌の色の人がいるので、違う色の人差別を受けない為と言えそうですが、そうかもしれません。</p> <p>しかし、日本で長年一般化した名称を「単に差別的だから」で変更してしまうのは「クレーマーがうるさいから、とりあえず言う通りにしておこう」の発想です。</p> <p>この「肌色」のルーツの根底に、日本人の黒人や白人に対する「差別」があり、「差別意識」から使っていたのであれば、変更するのに納得です。</p> <p>しかし、歴史的に見ても日本人は差別に対して否定的で、白人至上主義に対してもアジアで唯一抵抗しており「差別意識」というより日本人特有の肌の色がルーツであるのは明らかです。</p> <p>私はユニセフが提言する「子どもの権利条約」を守るためには、日本人が日本人の歴史や文化の説明ができ、それを自国の子どもたちに伝えるところからスタートだと思います。</p> <p>日本人は自虐史観から自分の国の歴史や文化を否定しがちです。</p> <p>自分の国の歴史や文化を否定し、単に相手の国の主張を受け入れることは、相互理解ではなく、単なるクレーム対応です。</p> <p>私はクレーム対応ではなく、本当の意味で相互理解を深めることが出来る子どもを育てるためにも、日本の自虐史観を改めていく必要があると考えます。</p>
横山 英幸	<p>賛同し、実現に努力する。</p> <p>大阪市こども・子育て支援計画に従い実現を図っていく。</p>
荒巻 靖彦	<p>※回答なし</p>

提言2 おとな子どもも「ともに学び、ともに育つ」ための条件を整えよう について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

回答2-② 提言2についての見解

北野 妙子	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>学校は子どもだけが学び、育つ場ではありません。教師、親、地域住民など大人も学び、育つ場であるべきです。授業以外にもさまざまな局面で親や地域住民に学校運営にできるかぎり関わっていただき、子どもたちと触れ合うなかで、学校をともに学び、育つ場にしていきます。</p>
山崎 敏彦	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>大阪府でインクルーシブ教育が「大阪維新の会」の下で育まれていたことを、今回立候補予定者になりはじめて知りました。</p> <p>学校の受け入れ態勢や校長の方針により、受け入れ状況は様々ですが、先生が望むのであれば、物的・人的環境の整備を充実させる必要な支援を行政として実施していく次第です。</p> <p>しかし、やみくもにインクルーシブを行うことで、お互いが不幸にならないような配慮は必ず必要です。そのために、これまで積み重ねてきた経験を基に、個人に合った環境設定ができているかの評価だけはしていただきたいと思います。</p> <p>また、2022年4月27日付の文部科学省通知に対しては撤回ではなく、但し書きを追加していただくように国に提案します。</p> <p>文部科学省通知 「特別支援学級に在籍している児童生徒については、原則として週の授業時数の半分以上を目安として特別支援学級において児童生徒の一人一人の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた授業を行う」</p> <p>追加但し書き 「但し、インクルーシブ教育の体制が構築され保護者、関係機関、学校との連携が図れたうえで、障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた上で半分以上必要でないとは判断された場合は例外とする」</p>
横山 英幸	<p>賛同し、実現に努力する。</p> <p>従来より進めてきた「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を一層推進し、発達障がいを含む障がいへの理解を深め、障がいのある児童生徒が地域で学びやすい基礎的環境整備を行うとともに、ユニバーサルデザインを取り入れた本市のインクルーシブ教育システムの充実と推進に取り組んでいく。</p>
荒巻 靖彦	<p>※回答なし</p>

提言3 テスト漬けの教育をやめよう について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

回答2-③ 提言3についての見解

北野 妙子	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>テストで追われ、子どもも教師も疲弊しています。また、教育の主眼が競い合うことだけにおかれ、ともに助け合い、高め合うことが軽視されてしまいかねません。大阪独自テストは廃止し、一人ひとりに向き合う教育に転換します。</p>
山崎 敏彦	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>子どもの成長は、テストだけでは測れません。むしろ、テストでは測れない部分にこそ人間としての成長はみられます。</p> <p>しかし、テストでしか測れない部分があるのも事実です。</p> <p>ただしそれは、先生の負担を増やしてまで測るものではありません。</p> <p>先生も一人の人間です。負荷が増えることで、子どもの教育に悪影響を及ぼすことも考えなければなりません。また、通常業務に追われることで先生が本当に伝えたい、人間的な成長を育む機会を無くしてしまうことは、子どもたちの成長を妨げることにもつながります。</p> <p>私はテストでは測れない、人間としての成長も学校現場で取り入れていただけるように支えていきます。</p>
横山 英幸	<p>どちらともいえない</p> <p>まず、提言3の詳細内容については、大阪府・市の独自施策である「チャレンジテスト」及び「すくすくウォッチ」の制度趣旨に関して誤解があり、また影響についても根拠の客観性が乏しいものとなっており、発問者の意図に沿った回答は難しいものと考えている。</p> <p>その上で、教育 ICT の深化により日頃の学習履歴と現在の学力が正確に取れる様になれば、必然的にテストの必要性はなくなるものとする。</p>
荒巻 靖彦	※回答なし

提言4 教育の目標と内容は、トップダウンではなくボトムアップで について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

回答2-④ 提言4についての見解

北野 妙子	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>この間、首長のトップダウンで教育行政が行われ、久保敬元校長の提言にもあるように教育現場を混乱・疲弊させてきました。子ども、教師、親、地域住民など学校に関わるだれもが積極的に意見を言ってみんなで教育と学校をつくる、ボトムアップの教育行政をすすめます。</p>
山崎 敏彦	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>政治家は元先生でない限り、教育のシロウトであると自覚する必要があります。</p> <p>教育は子どもが大人になり、自我を形成していく中で、社会人としての基本的な知識を伝え、努力することを学ばせる。子どもたちの今後の人生を左右する、大変重要な過程です。当然、その中にはテストだけでは測れないものもあり、数字や序列をつけることができない個性もあります。</p> <p>これを、表面的な数字だけ見て政治家が口出しをすること自体がナンセンスですが、民意を伝えることは必要です。</p> <p>子どもと現場の意見を尊重したうえで、それぞれの学校に合った教育を保護者や地域と共に目指していきたいと思います。</p>
横山 英幸	<p>どちらともいえない</p> <p>従来から学校裁量に任せている部分も多いと考えており、提言4は前提を欠くと考えます。教育委員会を置かず全ての事項を各学校の裁量に任せるのは義務教育における公的責任の放棄であり、一定トップダウンの事項は必要であると考えているし、全て各学校の裁量にゆだねるのは現場への過度な負荷となり妥当ではない。</p>
荒巻 靖彦	※回答なし

提言5 子どもも先生もゆとりをもって過ごせる少人数学級を実現しよう について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

回答2-⑤ 提言5についての見解

北野 妙子	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>子どもと教師がゆとりを持ち、また教師が子ども一人ひとりと向き合うためにも少人数学級が望ましいと思います。35人学級の早期実現に取り組みます。</p>
山崎 敏彦	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>私は子どもの人数が減ったから、簡単に統廃合するのは反対です。</p> <p>また、人数が増えたから少人数制を維持するためにクラスを増やす。クラスを増やせなくなれば、グラウンドをつぶして校舎増設する。それでもあふれた人は、他の地域の学校に通ってもらうのにも反対です。</p> <p>地域の子どもの人数が減れば、増やす努力をするのが政治です。</p> <p>地域に人気エリアが出来れば、他のエリアにも分散するように開発するのも政治なのです。</p> <p>子どもが減ったから学校を統廃合し、子どもが増えたからグラウンドをつぶして校舎を増設するのは、都市開発が下手な政治家のすることです。</p> <p>そして、そんな政治家を選んだ市民の責任です。</p> <p>また、少人数学級の実現も少子化の産物の一つにすぎません。</p> <p>少子化が改善すれば、先生の採用人数も増え、子ども一人一人のニーズも内向きから外向きに変わること、一人にかかる先生の負担も減ることにつながります。</p> <p>私は大阪市の少子化を改善し、子どもたちの笑い声と元気な御高齢者が共存する、本当の意味で豊かな大阪市を目指します。</p>
横山 英幸	<p>どちらともいえない</p> <p>一般的に少人数学級は教師の目が行き届きやすく、一人一人の子どもたちに寄り添った教育が行いやすいとされている。一方で今般の学習指導要領の改訂により、従来の一斉指導型から対話的な学びや個別最適化された能動的な学びへと教育のスタンダードが変化している中、学級の人数が少ない場合は多様な意見を聞き自らの視野を広げたり、少人数では達成できない様なプロジェクト型の学習が困難であることも指摘されている。</p> <p>今後一層グローバル化と価値観の多様化が進み、正解のない時代を生きていく子どもたちが多様な意見に触れ、受容性と主体性をもって自分の人生を生きていくことができるよう、様々な学習のあり方を研究し、本市教育振興基本計画をより一層ブラッシュアップしつつ、実践をしていきたと考える。</p>
荒巻 靖彦	<p>※回答なし</p>



提言6 先生には、余計な事務仕事ではなく、子どもとかかわれる時間を について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

## 回答2-⑥ 提言6についての見解

北野 妙子	賛同し、実現に努力する 教師を増員、事務作業を簡略化するとともに、スクールカウンセラーの増員や部活動などへの外部人材の登用などで「チーム学校」を確立し、教師の負担を減らします。
山崎 敏彦	賛同し、実現に努力する 提言3で述べた通り、先生も一人の人間です。 負荷が増えることで、子どもの教育に悪影響を及ぼすことを考えなければなりません。また、事務仕事に追われることで先生が本当に伝えたい、人間的な成長を伝える機会を無くしてしまうことは、子どもたちの成長を妨げることにもつながります。 私は事務仕事と向き合う時間ではなく、子どもたちと向き合う時間がつくれるように、現場の先生を支えています。
横山 英幸	賛同し、実現に努力する 余計な事務仕事は必要ないという点については同意するものの、どの事務作業が余計かという判断については個人の感性によるべきでないと考える。子どもと関われる時間をつくることについては、事務作業を効率的に処理するための ICT 環境の充実を図ってきた所である。
荒巻 靖彦	※回答なし

提言7 先生がいきいきと働けるために、評価ではなくサポートを について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

回答2-⑦ 提言7についての見解

北野 妙子	賛同し、実現に努力する 大阪市では教員に対する相対評価が行われていますが、弊害が著しく、即刻やめるべきです。教師の負担を軽減し、教育現場を魅力あるものにして、教師が意欲を持ち、意欲ある教師が大阪市を志望するよう取り組みます。
山崎 敏彦	賛同し、実現に努力する 繰り返しになりますが、先生も一人の人間です。 負荷が増えることで、子どもの教育に悪影響を及ぼすことを考えなければなりません。忙しい先生の姿を見て、先生になりたくないと思わせてしまうこと自体が悪影響を及ぼしている結果だと思います。 先生が本当に伝えたい、人間的な成長を伝える機会をつくり、先生を目指す子どもが増えるよう、現場の先生を支えていきます。
横山 英幸	どちらともいえない 教師のサポートが必要であることは間違いのないものの、教師の質の確保のためには評価制度は必須であると考えます。評価制度は子どもの教育環境の向上に努力し、成果をあげている教員を奨励し、そうでない教員には努力を促していくために欠かせないものであると考えています。提言内容が「評価ではなくサポートを」ではなく「評価だけでなくサポートも」であれば賛同し、実現に努力していく。
荒巻 靖彦	※回答なし

提言8 学校がより居心地のよい場となるための試みを応援しよう について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

回答2-⑧ 提言8についての見解

北野 妙子	賛同し、実現に努力する 私は「居心地のいい先進都市・大阪」を掲げています。当然学校も居心地のいい場となるべきです。そのために不登校やいじめの原因を把握してそれを一つ一つ取り除き、学校が子どもたちにとってより居心地のいい場となるよう取り組みます。
山崎 敏彦	賛同し、実現に努力する 生徒会や先生方から、地域に根差した学校づくりの取り組みとして上がってくれば、積極的にバックアップしていきたいと思います。 そのために、財政拡大により教育関係の予算も拡充することで、魅力ある居心地のいい公立学校を実現していきます。
横山 英幸	賛同し、実現に努力する 学校が子どもにとってより居心地の良い場になることは非常に重要であり、そのための現場レベルの取組みに関しては極力バックアップしていきたいと考えている。
荒巻 靖彦	※回答なし

以上